



看護実践研究指導センターの機能および平成29年度の活動

当センターは、全国の看護系大学の教育の質向上のための看護学教育研究共同利用拠点(平成22年度、平成27年度再認定)として、研究・研修・情報集約と発信を行っています。

センター教員は、看護システム管理学専攻教員との兼任教員として、現職の看護管理者の力量開発に従事し、博士後期課程における研究教育者養成と学部教育の一部を担っています。こうした教育研究活動をもとに、特任教員とともに、当センターを活用する側の視点にあわせて、社会が期待する看護の価値は何か、全国の看護系大学および教育関連施設がめざす機能の充実のために、どう貢献すべきかを検討し、各事業を企画・実施しています。

企画・実施に際しては、看護学の発展に向けて、教育研究者および実践者が、全国の状況を理解しながら、各地域における自組織および自分の貢献方法を検討・評価できるように、「教育・研究および実践をつなぐ」こと、看護系大学間、保健医療福祉機関相互の支援、および看護系大学と関係機関との連携を大切にしています。

主な研究は、看護学教育研究共同利用拠点としての機能向上に向けて、平成28年度から「看護学教育の継続的質改善(Continuous Quality Improvement:CQI)モデルの開発と活用推進」に取り組み、各看護系大学における教育の質保証のための手がかりとなるような、CQIモデルを開発しています(平成31年度まで)。また、文部科学省「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業」として「学士課程における看護実践能力と卒業時到達目標の達成状況の検証・評価方法の開発」(平成27-29年度)に取り組み、評価モデルを開発しています。

さらに、看護教育および看護実践の質を高めるように、FD (Faculty Development)、SD(Staff Development)プログラム開発および新規事業のシーズ開発として、全国の看護系大学教員あるいは実践者と共同研究を行い、実用性の検証まで、継続して実施しています。

研修は、FDとして、各看護系大学における教育の質保証に関わる管理的立場の看護系教員を対象に、毎年、「看護学教育ワークショップ」を行い、教員の組織変革に関する力量開発とともに、各看護系大学相互の支援を推進しています。本年度は、平成29年度までのCQIモデル開発および文科省委託事業調査結果を報告し、各看護系大学における戦略立案に関する相互支援の場をつくりました。

また、看護系大学の臨地実習施設における実習指導者を対象として、「看護学教育指導者研修」を行い、教育と実践の連携を推進しています。看護系大学が地域の保健医療福祉機関と連携して教育の質を向上させるように、病院に限らず、訪問看護ステーション、行政機関等の広範な実習指導者を対象に行っています。

一方SDとして、急性期病院の看護の効果・効率の改善に向けての「看護管理者研修」と大学病院の教育機能をはじめとする機能強化に向けて、「副看護部長研修」をそれぞれ行っています。

こうした研究・研修を通して、看護学教育に関する国内外の動向を共有し、各大学が教育の質改善の方向性について手がかりが得られるように、定期刊行物、ホームページ、データベース等で情報発信しています。より効率的に看護系大学と情報交換できるように、拠点インフォメーションメールも作成しましたので、ぜひご登録の上、当センターをご活用下さい。ご意見もお待ちしております。<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

本センターでは、拠点としての機能強化を図り、看護学教育に関する国内外の動向を共有し、各大学の教育の質改善のため、ホームページでの情報発信はもちろんのこと、個別指導や情報交換できるよう、下記のようなコンテンツ等を配信しております。

- FDマザーマップ・支援データベース(看護系大学のFDを支援するFDプランニング支援データベース)
- 組織変革型看護学職育成支援データベース(教育-研究-実践をつなぐデータベース)

また、メーリングリストを改め「拠点インフォメーションメール」とし、看護系大学等との連携・協働のための情報発信力向上に努めております。受け付けは随時行っておりますので、担当窓口部署、窓口担当者名を記入の上、件名を「(〇〇大学)拠点インフォメーションメール登録申し込み」とし、kango-CQI@chiba-u.jpまでお申し込みください。



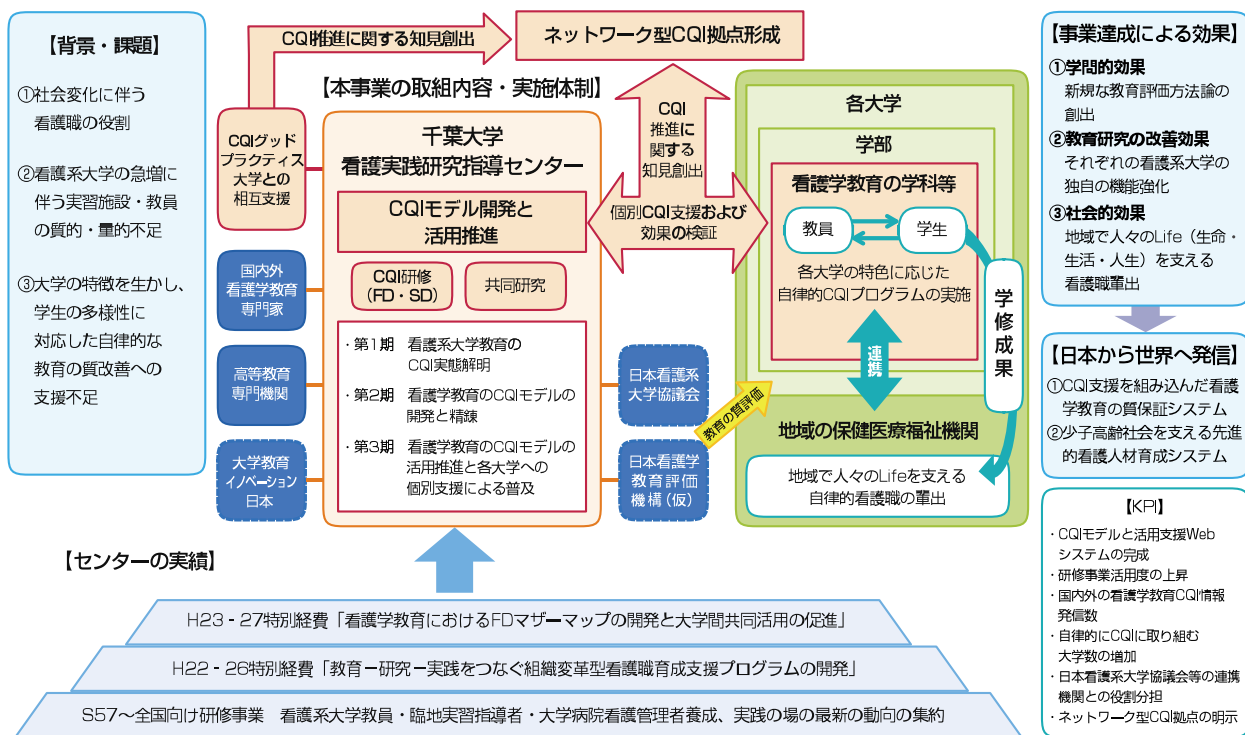
看護学教育のCQIモデルの開発と活用推進事業

本事業は、「全看護系大学が看護職への社会的要請の変化に即して自律的に教育の質を保証するために、看護学教育のCQIモデルの開発と活用推進により、支援体制を構築する」ことを目的に、平成28年度から平成31年度の4年間の拠点事業として着手しています。

平成29年度は、第1期<看護学教育のCQIモデル開発のための実態解明>のフェーズから、第2期<看護学教育のCQIモデルの開発と洗練およびネットワーク型CQI支援体制の準備>の移行期にあります。まず、平成28年度末に実施した看護系大学のCQI活動と背景要因に関する全国調査結果をまとめ、平成29年度看護学教育ワークショップおよび第37回日本看護科学学会で発表しました。また、各看護系大学から依頼を受けて対応する個別CQI支援では、FDマザーマップ活用型のFDコンサルテーションや、分野を超えた教員で取り組む授業改善への支援、学生対応を教育の質改善につなげるFD研修、実習施設や行政保健師を対象としたFD研修企画の支援などを実施しました。さらに、CQI推進者が参加する看護学教育ワークショップの他、新たに、看護系大学FD企画者研修を企画し実施しました。加えて、5大学が参加するCQI推進の前向き事例研究に着手しています。このほか、引き続き、大学教育イノベーション日本のネットワークを通じた国内のCQI支援の取り組みについて情報収集し、日本看護系大学協議会(JANPU)や日本看護学教育評価機構(仮)との連携体制の準備をしています。これらを通して、看護学教育のCQIを推進するには、多種多様なCQI支援ニーズに応じるネットワーク型CQI拠点形成の必要性がわかりました。そして、CQIに関わる情報発信力を高めるため、当センターのホームページを改築し、拠点インフォメーションメールを発足させました。

第1期の成果から、看護学教育のCQIを推進するという事は、トップリーダーによるマネジメントの部分だけではなく、むしろ、一人ひとりの教員、職員、学生、実習施設等の関係者ならびに地域の人々との協働関係の中で、質改善のための課題を捉え、個人の気づきを組織的な取り組みへと発展させていくことであるということがわかってきています。これらをもとに、現在、看護学教育のCQIモデル試案を検討しており、次年度は看護系大学のみならずと洗練することに取り組んでいく予定です。

看護学教育の継続的質改善(CQI:Continuous Quality Improvement)モデル開発と活用推進事業



看護学教育の持続的質改善(CQI)モデルの開発と活用推進 年次計画(概略)

		平成28年度	平成29年度(実施中)	平成30年度	平成31年度
事業フェーズ		第1期:看護系大学教育のCQI実態解明	第2期:看護学教育CQIモデル開発	第3期:CQIモデルの活用推進	
実施内容	CQIモデル開発	●CQI 全国調査 ●CQI 事例研究準備	●CQI 全国調査 ●CQI 事例研究 ●CQIモデル試案作成	●CQIモデルの活用説明会実施 ●活用協力校の募集、選定、ルールの決定と共有 ●CQIモデルの精練・完成	●CQIモデル活用支援の効果検証 ●CQI推進者研修プログラムの開発 ●全国CQI調査の実施と分析
	CQI支援	●FDマザーマップ活用の効果検証	●各大学要請対応型CQI支援 ●FDマザーマップ活用型FD支援	●CQIモデル活用型CQI支援 ●各大学要請対応型CQI支援 ●FDマザーマップ活用型FD支援	●CQIモデル活用型CQI支援 ●各大学要請対応型CQI支援 ●FDマザーマップ活用型FD支援
		●CQI研修事業 ●CQIコンテンツ開発 看護学教育ワークショップ(10月)	CQI研修の拡充+FD&SDコンテンツ開発		
		看護系大学FD企画者研修(7月~3月) 看護学教育ワークショップ(10月)	看護系大学FD企画者研修(7月~3月) 看護学教育ワークショップ(10月)	看護系大学FD企画者研修(7月~3月) 看護学教育ワークショップ(10月)	看護系大学FD企画者研修(7月~3月) 看護学教育ワークショップ(10月)
		ネットワーク型CQI相互支援体制の確立 事業評価と発信			

大学における医療人養成の在り方に関する調査研究事業

文部科学省委託事業（平成 27～29 年度）「医療人養成の在り方に関する調査研究」は、最終年度を迎えました。この研究プロジェクトでは、文部科学省から 2011 年（平成 23 年 3 月）に示された「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」（以下、『到達目標 2011』）という外部指針を、看護系大学が、自大学の教育の質保証・質改善のために、どのように活用しているのか、活用できるのかということを見出しました。

これまでに4つの研究（①『到達目標 2011』の活用実態と背景要因に関する全国調査、②『到達目標 2011』活用や教育の質改善に関する後ろ向き事例研究、③『到達目標 2011』活用や教育の質改善に関する前向き事例研究、④看護学教育ワークショップ参加後の『到達目標 2011』の活用を含む各看護系大学の取り組み状況等に関する web 調査）をすすめてきました。その成果を統合したところ、各大学が実施する自律的な教育の質改善、その前提となる大学教育や自大学の理念や現状の理解、『到達目標 2011』のような外部指針活用の様相・関係性が浮き彫りになりました。

以上の研究成果、看護学教育ワークショップの経験、専門家会議での検討を経て、『「自大学の卒業時到達目標」の達成度を評価するとは』について提言をまとめ、パンフレットを作成いたしました。報告書、およびパンフレットはホームページに掲載しますので、多くの大学、関係者に活用して頂くことを願っております。

看護学教育ワークショップ



平成 29 年度看護学教育ワークショップは、昨年度のワークショップ成果「CQI を推進するのは自分たちである」という役割認識を発展させ、『看護学教育の自律的・継続的質改善（CQI）の戦略を練る』というテーマで、＜講演と公開討論会の部＞、＜グループ討議と成果共有の部＞の2部構成で開催しました。＜講演と公開討論会の部＞は、107 機関 157 名の参加があり、全日程参加者は、65 大学 67 名でした。

中村伸枝研究科長の挨拶に続き、文部科学省高等教育局医学教育課の斉藤しのぶ専門官から、「高等教育行政における看護学教育への期待と質保証の課題」と題した講演がありました。当センターからは、「全国看護系大学の CQI 活動に学ぶ CQI 戦略」と『到達目標 2011』に学ぶ CQI 戦略」と題する2つの報告を行いました。続いて、仮想大学 2 校の CQI 戦略を練る模擬公開会議という初の試みで開催した公開討論会では、一人ひとりの教員が、個人として声をあげ、話し合う場を、公式、非公式にもち、組織としての取り組みにどうつなげていくかが議論されました。

そして、これらを受けた＜グループ討議と成果共有の部＞では、日常の教育の質改善を継続的に行うための教員のエネルギーの重要性、看護系大学を取り巻く社会を俯瞰して見方を転換することで見えてくる多様な CQI の活用資源、実習先や地域社会の資源を互恵的な関係の中で活用する仕組み作り、個々の教員の力の発揮を促すトップの役割、過渡期の今必要な数十年先の先見性と一人ひとりの不寛容の克服などについて、再確認や発見がありました。

参加者アンケートからは、各大学の CQI 戦略を考える上で、タイムリーな情報や自大学に反映できる情報が得られたこと、様々な背景の教員間での交流から共通する課題や取り組みの共有があったことが示されました。看護系大学の CQI の推進者向け FD プログラムがまだ少ない中、CQI 推進者としての立場にある参加者を通して、全国の看護系大学間の相互支援の契機になるワークショップでした。



国公立大学病院副看護部長研修



国公立大学病院副看護部長研修は、日本の医療の現状を踏まえて、大学病院の上級看護管理者として自施設の組織変革に向けたビジョンを明確にし、その実現に向けた計画を立案・実施・評価することを通して、上級看護管理者として必要な実践的能力を高め、大学病院の看護の充実に努めることを目的として、平成18年度から毎年実施しています。

大学病院の教育機能をはじめとする機能強化に向けたStaff Development (SD)として位置づけられます。平成29年度は、20名の国公立副看護部長を迎え、1年間を通して自施設で取り組む各自の実践計画に沿った組織変革プロジェクトを推進しました。千葉大学の当センターでは、3期に分けた分散型集合研修Ⅰ～Ⅲを受講生に提供しました。研修Ⅰは大学病院の高度実践看護管理者として必要となる最新の学際的知識を学び、研修Ⅱは課題解決に向けた演習およびプレゼンテーションスキルの演習などから小グループのダイナミクスを活かした学習、研修Ⅲは実践報告会を実施しました。年間を通して、センター教員からの継続した指導および、全国から集まった研修生相互の交流から、実践力が高められるようシステム化されています。大学病院における看護管理の今日的課題と実践知がまとめられた実践報告書は、研修生の同意を得てセンターのデータベースおよび、図書館リポジリーへ登録されますのでご利用ください。

看護管理者研修

近年の医療制度改革において、急性期病院は、限られた在院日数で効果的に医療を提供し、速やかに地域での生活に戻ることができるよう支援する役割が求められています。看護管理者研修は、看護師長等、現場の看護に責任を持つ職位にある、国公立病院をはじめとする急性期病院の看護管理者が、医療提供体制の変化に対応した複雑かつ重要な課題を組織的に解決する能力を開発することを通して、看護本来の役割発揮を支援することを目指して、毎年開催しています。

今年度は、全国から96名の看護師長相当の看護管理者が集まり、平成29年9月25日(月)～9月27日(水)の3日間、千葉大学看護学部を会場に開催しました。文部科学省から大学病院支援室宇野光子専門官、厚生労働省看護課から関根小乃枝教育体制推進官、元日本看護協会長の坂本すが氏、退院支援の専門家宇都宮宏子氏など総勢9名の多彩な講師陣で構成された講義では、少子高齢社会における人々の健康と生活の充実のために、いかに現場の看護管理者の役割発揮が重要であるかを再認識するとともに、全国の看護管理者間の良いネットワークの形成ができました。



看護学教育指導者研修



現在、毎年約10校のペースで大学の新設が続いており、次世代の看護職を育成する上で、地域の様々な保健医療施設と看護系大学の連携の重要性が高まっています。看護学教育指導者研修は、看護学生の看護実践

を直接指導する臨地実習施設所属の看護職が、社会の変化に即した看護学教育を行う上で必要な視点を養い、臨地実習施設と看護系大学の更なる連携・協働により、社会が求める次世代看護職の育成に資することを目的として、毎年開催しています。

今年度は、全国から39名の看護系大学の臨地実習施設所属の看護職の皆様を研修生として迎え、平成29年8月23日(水)～8月25日(金)の3日間、千葉大学看護学部を会場に開催しました。初日は看護高等教育行政の動向、看護学教育の基礎、看護における成人教育のあり方を学び、2日目からはグループワークを行い、上手いかなった教育指導実践の事例をいかに教育のチャンスとして教材にしていくかをグループで検討、その検討結果を使ってロールプレイング学習を深めました。本年度から、臨地実習施設と看護系大学の更なる連携・協働に向け、看護系大学FD企画者研修の参加者にもグループワークにご参加いただきました。今後は、さらに有効な研修へと発展させていきたいと考えております。

看護学教育FD企画者研修 NEW

本研修は、平成29年度からの新規事業として開催しました。目的は、組織分析を通して自大学の課題を特定し、看護および看護学の本質を踏まえ、自大学の実情に見合った体系的なFD (Faculty Development)を企画・実施・評価できるFD企画者(FDer)としての能力を身につけることとしました。2名5組の募集としたところ、20大学を超える応募があり、研修内容と合致する5大学10名を選考して実施しました。研修Ⅰは、FDマザーマップ等の看護学教育の体系的FDに資する情報提供の後、各大学の組織状況とそれに応じたFD企画についてディスカッションを行い、企画立案を課題としました。研修Ⅱは、看護学教育実習指導者研修へのファシリテータ参加形式の演習とし、前後に立案中のFD企画について実施方略を含めた情報交換を行いました。自大学の地域貢献を確認する調査実施を視野に入れた集合型研修、自立的キャリア発達に貢献する教員個別のFD支援企画案などが検討されました。研修Ⅲでは計画、実施、評価の経過報告を行い、FDerとしての能力開発へのフィードバックを行うこととしています。



看護学教育研究共同利用拠点

発行 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 U R L : <https://www.n.chiba-u.jp/center/>
TEL : 043-226-2377・2378(看護学部事務局) E-mail : nursing-practice@office.chiba-u.jp